

パスポートの更新

内藤 真理子

2011年3月11日、夫婦で都庁にパスポートの更新に行った。

夫は定年を過ぎ、毎日が日曜日。たまの外出にソワソワ。

「昼飯は昔よく行った会社の近くのラーメン屋に連れて行ってやる」と上機嫌で、午前中に家を出た。初台にあるその店で自慢のつけ麺を食べて、そのまま歩いて都庁まで行き、パスポートの手続きが終わったのが13時。

「せっかく来たのだから、展望台にも」と、暇を持て余している私達は、45階まで登り、晴れた東京をぐるりと一望して家路についた。

家に帰り、居間に腰を落ち着けたとたんに「ぐらっ、ときた。

大きい。

慌てて腰を浮かせてテレビを点けた。日本間に下がった電気が大きく揺れて天井にぶつかっている。

二階で大きな音がした。夫が壁を伝いながら上がって行ったら、ステレオスピーカーの上置いてあった碁盤と将棋盤が落ちていたそうだ。後で見たら、床がえぐれている。さいわい仏壇や家具、電気製品は留めてあったので、被害はそれだけだった。

テレビ画面に津波の映像が映っている。現実とは思えない地獄絵だった。その上、原発事故もあり想像を絶する災害だったのだ。

あの時は、日本中が沈んで誰もが謙虚になっていたような気がする。私もそうだった。

2021年3月11日。再びパスポート更新の日がやって来た。

東日本大震災から10年。世間では毎年この日が来る度にあの情景がテレビに映し出され、被災された人々の葛藤や変化、我慢や努力、時には喜びや希望が目に見える形で開示されてきた。人間、いつ何があるかわからない。楽しみは自分で求めなくては！ 散々迷った挙句にパスポートの更新を決めた。

だが、出来上がって見たら、思った以上に老けている。ショック！ 途中経過を忘れて一気に10年前の写真と比べたからだと気を取り直して、10年前のように高みに登って下界を見ようと展望台行エスカレーターに。

「おっとっと……コロナ禍のため展望は出来ません、ですって！」

今度はコロナ？！